

衿の発生については我国で衿といわれるのは「衣服の端」という意味で主として頸部、咽喉部をめぐり衣服の縁辺をさす。この意味での衿は衣服のうちでも上衣の存在と同時に発生しているといわれている。更にさかのぼれば一片の布を肩や首に巻いた時に生ずる斜めの線や垂直線の流れを衿線と呼ぶことが出来る。

東南アジアの各地において肩にかける一条の布の多様性と美しさに心をうたれたが衿の発生発展と無縁では無いと考えられる。スレンガンとして肩にかける布は上衣の成る以前、上半身を覆った衣服の名残りとして存在する。さて衿の名稱はこのような一片の布から身体に固定された形、すなわち上代の貫頭衣、又布を二つに折り曲げて前中央を割つた形の東洋的原始衣となつてから特に意味を持つようになった。最初は今日に見られるような衿の形はなく先ず着用するのに便利なよう頭の入るだけの穴を明けると、前を割つて明けることから始つたが東洋では後者の形が基本となつて発展していった。それらの事実を資料に基づいて考察して見たい。